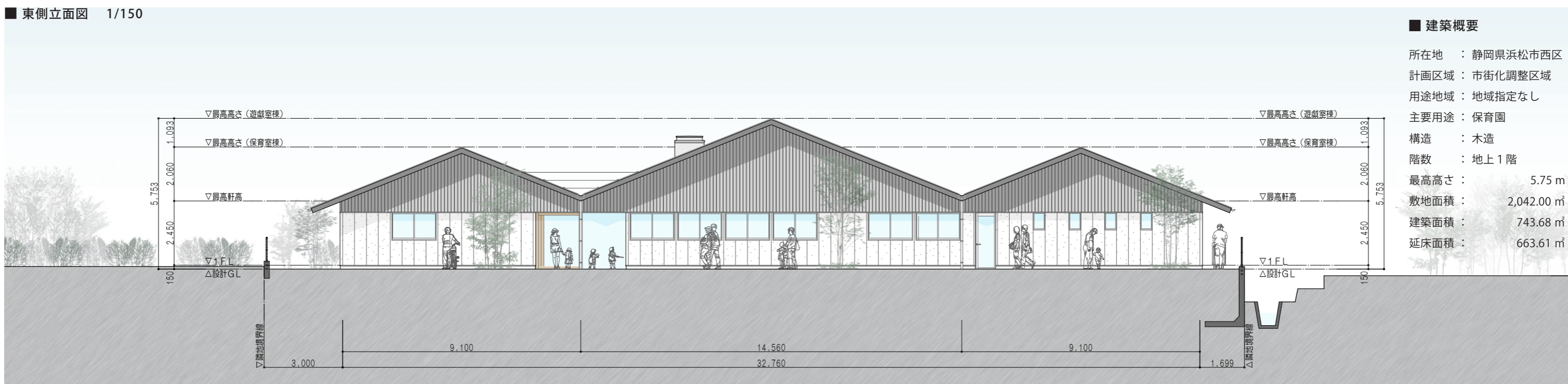


さなるこ保育園 — 連なる屋根 —



駐車場から園舎を見る。
地域の養鰻場から手がかりを得た3連の切妻屋根。

■ 東側立面図 1/150



■ 建築概要

所在地 : 静岡県浜松市西区
 計画区域 : 市街化調整区域
 用途地域 : 地域指定なし
 主要用途 : 保育園
 構造 : 木造
 階数 : 地上1階
 最高高さ : 5.75 m
 敷地面積 : 2,042.00 m²
 建築面積 : 743.68 m²
 延床面積 : 663.61 m²



■ 設計コンセプト

本計画は、静岡県浜松市に新設した認可保育園の計画である。木造の園舎と、ある程度まとまった広さの園庭と駐車台数の確保、そして何よりも低予算での実現が求められた。敷地は約 54m×37mの東西に長い長方形で周囲は農地となっており陽当たりも良く、東側に接道されている幹線道路の交通量が多いことに注意を払うこと以外は概ね環境の整った条件であると感じた。配置計画の検討から行ったり『園舎』『園庭』『駐車場』の3つの要素をいかにレイアウトしていくかで保育環境と建設費が決まると考えた。保育環境に関しては、南面する保育室の確保と道路からの園庭の安全面を、建設費に関しては、全体を構成する一定のルールづくりや寸法体系の規格化によって施工と資材の効率化を図ることとした。

初めに配置計画の検討から行った。まず接道のある東側へ駐車スペースを確保し、園舎の形状と南側園庭の取り方についていくつかのタイプを段階的に思案した。①東西に長手を取る園舎では長さが足りないため、2階建てとなり耐火性能の要求から費用面は不利であり、保育室から園庭へのアクセスにも不便を生じる。②L型園舎で平屋とし、園庭を南東に配置した場合、園庭が駐車場及び幹線道路側に開かれた状態となるため安全面に欠ける。③L型園舎で南西側に園庭を配置した場合、安全面は確保できるが、南面する保育室が限られてしまう。④コ型園舎で中央と南側に園庭を配置する場合は、園庭の安全性と全保育室の南面を確保が可能で、かつ遊戯室と園庭との繋がりも良好となり、これを配置の決定案とした。

次に園舎建築の断面計画を行った。木造園舎ということから、耐久性の面で勾配屋根を選択した。コ型の園舎に対し一定の連続する断面とし、全体構成の簡略化を図ることを前提に検討を進めた。①外側へ片流れとする断面で構成した場合、園庭側では軒が高くなるため悪天候時の吹きさらしが懸念される。②内側へ片流れとした場合、南側(保育室)と東側(エントランス)の軒が高くなるため、屋根に加えて庇などが追加が必要となる。③切妻屋根とした場合、外部との繋がり部分に軒下が確保できることから、園庭との親和性が最も良いと考え切妻屋根を採用した。また内部についての検討を同時に行った。上記の屋根検討から導き出された一定の断面構成とした場合、いずれの屋根形式も通り一掃となり、内部としては変化の乏しいものになる。特に遊戯室空間は保育室とは異なる広さや高さ、気積が求められるため一定の断面構成を保ちながら、異なる質に適応可能な断面計画の工夫が必要だと感じた。④そこでこの地域の農業や養鰻場などでよくみられるビニールハウス連棟に手掛かりを得て「3連の切妻屋根」による連棟形式とすることにした。同勾配の切妻屋根を連ねることで全体の規則性は保ちつつも間口幅に応じて高さに違いが出るため、中央の空間は自ずと遊戯室に適切な高さとなることが可能となった。材料選定については、木造であるため間取りを含め全て尺モジュールにて計画し、寸法で規格されたものに限定して採用している。外壁は窯業系サイディングで働幅は尺5寸とGL鋼板スパンフレは6尺(働幅260mm×7)、屋根はGL鋼板縦葺きで働幅は尺5寸、サッシは6尺と尺5寸、内装天井材は化粧梁間に3尺角の吸音石膏ボードを施すなど、材料ロスの低減と効率的な施工の徹底を行っている。この様に保育所として備えるべき必要最低なもののみで最大限の効果を得るための設計を意識し、建設当時のウッドショックによる資材不足や価格高騰なども乗り越えて満足度の高い園を実現することができた。

■ 配置・断面スタディ

配置スタディ



- ①長方形と南側園庭
- ②L型と南東側園庭
- ③L型と南西側園庭
- ④コ型と南側園庭2つ

断面スタディ



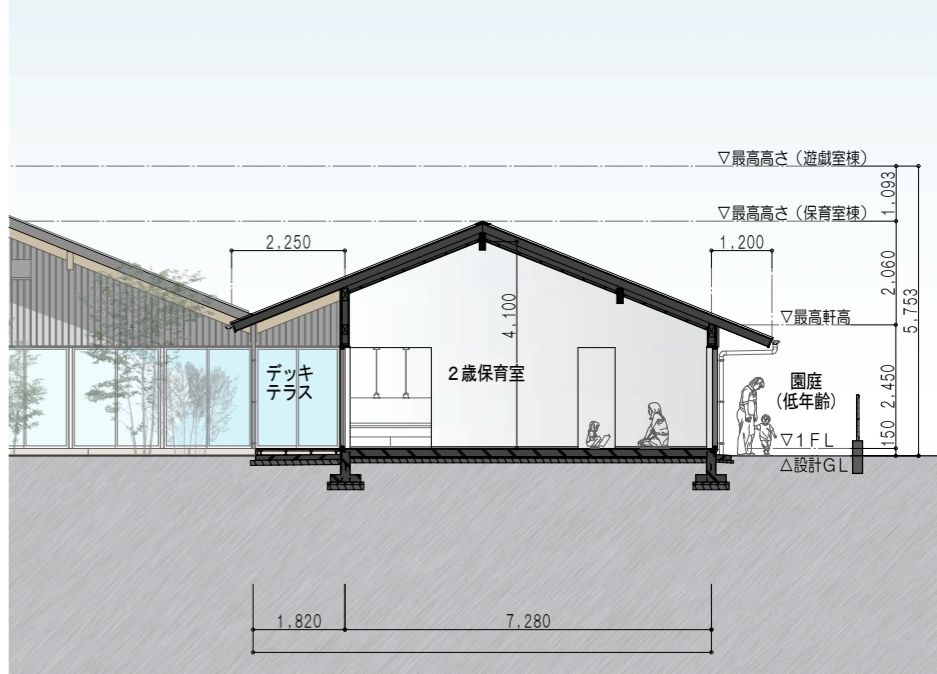
- ①外側へ片流れ屋根
- ②内側へ片流れ屋根
- ③コ型の切妻屋根
- ④3連の切妻屋根



■ 南側立面図 1/150



■ 南北断面図 1/150





■ 南北断面図 1/100

